

IUHW



The gazette of International University of Health and Welfare



初秋の国際医療福祉大学

特集

谷 新学長就任 大谷学長は総長へ
視機能療法学科設置認可
海外研修活動報告
コラム ～ 悲しみとやさしさに舞う～



発行：学校法人国際医療福祉大学 平成13年10月22日
編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線8116
ホームページアドレス <http://www.iuhw.ac.jp/>

学 長 交 代

平成 13 年 10 月 1 日

谷 新学長就任

大谷前学長は総長へ

新学長



谷 修一 (たに しゅういち)

●プロフィール
昭和十四年三月二十日生まれ。高知県出身。昭和三十八年千葉大学医学部卒業。医学博士。昭和四十四年厚生省(現厚生労働省)入省。保険局医療課長、大臣官房厚生科学課長、審議官(科学技術担当)等を務めた後、保健医療局長、健康政策局長を歴任。平成十年より社団法人 全国社会保険協会連合会 副理事長を務める。

●教育活動
昭和五十八年より千葉大学 医学部 公衆衛生学教室 非常勤講師
平成十年より学校法人 国際医療福祉大学 評議員
平成十一年より日本大学大学院 グローバルビジネス研究科 客員教授

●国際活動
第四十六回 世界保健機関 (WHO) 総会をはじめ WHO の各委員会・会議等にて政府代表として活躍

谷学長就任、大谷総長就任セレモニー開催される



十月一日午後六時から、谷 修一 新学長の就任、大谷学長の総長就任のセレモニーが行われ、大学法人役員、教職員、関連施設の長等が出席しました。高木理事長がここに至った経緯を説明されました。大谷学長はこれ夏前に年齢、健康の理由で辞意を表明され、急遽理事会の選考により谷学長の就任となりました。

開原副学長を委員長とし、成る学長選考委員会が組織され、学長候補を選び、同時に、大谷前学長は本学の寄付行為にある、総長に就かれました。



この後、新旧学長を囲みレストランでレセプションが開かれ親睦の一夜を過ごしました。

この後、新旧学長を囲みレストランでレセプションが開かれ親睦の一夜を過ごしました。



学長退任・総長就任のことば

大谷藤郎



開学以来六年六か月、皆さんと一緒に歩んできましたが、この度、学長の職を辞しました。毎日接していた元氣な皆さんや、陽光にきらめいていたキャンパスを、もう目にする事が無いと思うと、いささか淋しいのですが、今はIT時代です。また、近い東京におりますので、学生の方でも教職員の方でも、話したいと思う人はいつでもお出かけください。今までと違って、却ってゆつくりお相手ができるというものです。大田原を離れても私の心はいつも皆さんと一緒にあります。

「健康に留意されること。他者を思いやる心をもって社会に本當に役立つ人間になってほしいこと、もちろん自分自身の意志をもつて悔いのない人生を生き切ってください。」と最後のメッセージを送ります。

私が皆さんに語りたかったのは、『講義録』人間を考へる『勤み働きて神を畏れよ第一・二・三集』それから今度新しく作成して皆さんにプレゼントした『勤み働きて神を畏れよ第四集』共に生きる社会を求めて、の中に自分自身の経験、反省を例にして述べております。お読みいただければ幸いです。

九月十二日ニューヨークの貿易ビルのテロ。これを引きつなげ、世界中が俄に騒ぎんとしてきました。凄惨な第二次大戦を経験してきた私としては、あのような世界大戦にならないことを願うばかりです。

テロの原因の一つがアメリカ一國だけの突出した繁栄に対する怒りだといふ人がいます。しかし我が國も、中国、インド、バングラデシユの三方國、二十三億人と比べると、日本人一人あたりの消費額は、三千万平均の約三十二人に相当、紙の消費は三十八人分、化石燃料は十八人分、乗用車の台数に至っては二百七十五人分にもなるそうです。(読売新聞九月二十四日記事)不況とかりストラとか言われていますが、世界的にみると、私たち日本人がいかに見かけの贅沢をしているかということ。贅沢がいかに少ないとは言いませんが、世界の多くの人々が物質的窮乏に苦しんでいることについて、わがことのように痛みを共有する謙虚な姿勢が今の日本人には欠けています。日本人にアメリカ力を非難する資格はないのです。

若い皆さんが、広く世界を展望して、他者を考えるよき日本の社会を築き、幸せな人間への未来を切り開いてくださることを期待しております。

視機能療法学科

平成十四年度より、保健学部にて視機能療法学科を新たに設置することが認可されました。保健・医療・福祉の総合大学である国際医療福祉大学の特徴を最大限に生かし、高度な専門知識と技術を習得することにももちろん、眼科医や看護婦とともにスムーズな連携を保ち、チーム医療の中心を担うことのできる優れた人間性を合わせもった新しい時代の視能訓練士を育成することを目指します。

視能訓練士 (オルソプティスト・Orthoptist)



近年、特に早期発見・早期治療が提唱されるようになっていきましたが、眼科医療においても例外ではありません。デリケートな目を守るスペシャリストを求めている声は年々高まっています。欧米では古くから医療専門職として活躍している視能訓練士とは視能訓練士法に基づく国家資格をもった医療技術者です。わが国での歴史はまだ浅く、視能訓練士の数は少なく、今後一層の人材育成が期待される専門職です。

人は生まれた直後から徐々に物を見ることを学習し始め、五歳ぐらいで成人と同じくらい良く見えるようになります。しかし、この時期に何らかの原因で視機能が正常に発達しなくなると、様々な物を見る機能がやがて損なわれてしまいます。このようにデリケートな視機能を検査し、斜視や弱視などの視覚障害を持つ人に対して視能矯正訓練（視力を発達させ、両方の眼で物を見る訓練）を行うのが、視能訓練士の仕事です。

これまで視能訓練士は、眼科医療従事者として主に視力や視野検査などの視能検査や弱視・斜視の検査及び訓練・治療に携わってきました。視機能療法学科では、さらに近年の医療技術の目覚ましい進歩・高齢化社会・リハビリテーションの重要性を考え合わせ、これからの眼科医療従事者に求められる高度な技術を幅広く習得させるだけではなく、眼科以外の様々な領域でも活躍できる思考力と探究心を兼ね備えた人材を育成したいと考えております。

視機能療法学科の特色

視機能療法学科長(就任予定)
新井田 孝裕



新井田 孝裕 (にいだ たかひろ)
保健学部教授 視機能療法学科長
(平成十四年四月就任予定)

プロフィール
北里大学大学院にて神経眼科を専攻。医学博士。パージニア州立医科大学に留学し視覚生理学を学ぶ。その後東京林間病院眼科医長等を歴任後、現北里大学医療衛生学部(視覚機能療法専攻) 助教授。現在、日本神経眼科学会評議員としても活躍している。



このため、専門教育の特色として、まず、神経眼科学の充実があげられます。神経眼科学は視覚及び視覚と密接に関連する眼球・心と目の動きを解析することによりこれらの神経の仕組みや脳における情報処理を探究する学問領域であり、視覚心理学や大脳生理学の領域も含まれます。眼からの情報は五感の中で約八〇%を占めると言われており、斜視弱視を学ぶ視能矯正の分野においても神経学的視能矯正の観点から病態や機能を考察することが非常に大切です。様々な



な神経眼科的検査法を学ぶだけでなく、検査結果や生理機能に対する洞察力を養い、更に、脳の可塑性や代償機構、五感の相互作用を学ぶことによりリハビリテーションの分野で重要な脳機能学への理解を深めることができます。

二番目の特色としてロービジョン医学を新たな科目として新設いたしました。障害を持つ人たちの支援は社会的にも近々非常に重視されており、感覚情報や生活に支障を来した人々へのサポートが求められています。残存している視機能を有効に活用するための拡大鏡などの補助具の選定やその装用訓練は視能訓練士の業務としてますます重要になってきております。本学科では様々なロービジョンケアについて学ぶとともに、障害を持つ人々への心理学的ケアや、本学関連学科の協力のもとで包括的チーム医療を実践するための幅広いロービジョン医療を学ぶことができます。



現在、建設中のM棟です。視機能療法学科の中心となる場所です。

視力屈折検査は視能訓練士の日常業務の中で最も頻度の高いものですが、更に眼科医の指示のもとでメガネやコンタクトレンズの処方をおこなったリ、レーシックをはじめとする角膜屈折矯正手術の普及により、新たな検査項目も加わっております。検査結果により高い再現性や精度が求められているため、検査手技の技量を磨くだけではなく、基礎的な波動光学や生理光学、光学理論について体系的に学ぶことのできるカリキュラムにいたしました。

最後に、論理的な思考力を深め、研究のプロセスを実際に経験させるため、四年次に卒業研究を取り入れました。探究心や思考力を養い、将来、大学院や教育職、研究職への進路を目指す人材の育成を行います。



国際医療福祉大学 平成二十三年度学内研究発表会

去る七月三十一日(火)杉原教務委員長の開会の挨拶、大谷学長の「自分の体験を元にした大学に於ける研究題目のあり方、見つけ方、研究の進め方」に関する挨拶を皮切りに、発表者関連学科長を座長にして、口頭発表二十一件(二会場)、ポスター発表十五件(二会場)、計三十六件の研究発表が三会場に分かれて同時進行で開催された。

ポスター発表は、参加者となるだけ多くの研究発表を聞けるようにとの考えより、会場数低減を目指し今回新しく加えられた。

各会場では熱の入った発表と質疑応答がなされ、昨年度一年間の研究成果のまとめ・評価と各学科・センター間にまたがる情報交換が行われた。

(FD小委員会委員長 田之上司)



「国際義肢装具学会」参加報告

二〇〇一年七月一日から六日まで、イギリスのグラスゴーで第十回国際義肢装具学会が開かれました。私は地元グラスゴーのStrathclyde大学の教員二人とともに「短下肢装具のバイオメカニクス」というタイトルの教育講演を担当しました。主に装具に関する生体力学に関する内容ですが、早朝八時からの開催に関わらず二百名近くの参加者があり、この分野に対する関心の高いことがわかりました。Strathclyde大学では卒業生や現職の義肢装具士、理学療法士を対象に定期的な義肢に関する研修を行っています。日本でも今後、このような活動ができればと考えています。



(大学院教授 山本澄子)

English Evenings

7月25・26・27日の三日間、恒例の英語公開講座「English Evenings」が開講されました。夜6時から8時までという時間帯にもかかわらず、初級・中級・上級の三クラスに、五十名あまりの受講者が参加しました。毎年参加のレギュラーメンバーには「Welcome back! You look so good!」と笑みがこぼれ、L1教室が初めてという初参加の人には教材の面白さを体得してもらわなくてはと、担当教員全員張り切りました。たった三日間だからこそ、学ぼうとする意欲は旺盛で、活気溢れる授業風景になりました。どのスナップ写真にもその様子がうかがえると思います。

今年のテーマは「To stay fit」。ネイティブの先生方と、どんな運動をしているかを話し合いました。真っ黒に日焼けした中学生は「Baseball!!」、元気な女子中学生は「Softball!!」、サッ

カー選手の中学生もいました。上級クラスでは海外経験のある高校生や社会人のメンバーが揃い、級友としていい出会いとなったようです。

三日目の夜は、Tea Partyで盛り上がりました。ジョージ先生とポール先生がギターを抱えて歌ってくれましたし、それぞれのクラスの代表者も立派な英語の挨拶ができました。開講にあたって準備はもとより運営担当の総務課の方々も、にこやかに英語でスピーチをしてくださいました。さすがは「国際」という名の大学です。高橋さんの「Join us again next year」という言葉には大拍手がおこりました。そして、参加者から『楽しいということはすべての事柄の上達にとっても大切なことです。本当に楽しい三日間でした。』という感想をもらって、改めて教えることの基本を痛感しました。

(南井紀子)



▲先生の英語の聞き取りに一所懸命



▲先生方のあいさつ



▲ご高齢の方々も楽しそう



▲英語で自己紹介

言語聴覚障害学科 第三回卒後研修会開催される

八月五日(日)言語聴覚学科同窓会主催の「おおるり」第三回卒後研修会が、在校生二四〇名が一堂に集い、盛大に開催されました。学術講演、よろず相談会、総会、症例検討会と二日間とても充実した内容であり、もちろん四日夜には、学科教員も交えての懇親会が開かれ、上恭彦による「インリアルアップ」についてでした。臨床に役立つ例検討会では、成人言語・摂食嚥下・小児言語・小児聴覚の発表があり、臨床に真しに取り組む様子が報告されていました。今後ますますの内容の充実を期待しています。

(言語聴覚障害学科 畦上恭彦)



▲受付の様子



▲症例検討会の一コマ



フィジカルアセスメント 研修会を開催して

看護婦にとってフィジカルアセスメントとは、ケアの根拠と効果の測定、評価のための目安や指針となる情報を得るための技術です。このフィジカルアセスメントの技術は看護学科でも看護技術論として学生に教授しております。このため、教員にとっても確かなフィジカルアセスメントの技術が求められ、より実践的な教育方法の展開を目指しています。看護学科では七月二十四日～二十六日の三日間、講師に大分県立看護科学大学助教教授・山内豊明先生をお迎えし研修会を開催致しました。研修会の形式は、講義と演習で進められ、講義はアセスメン



トの意味づけに始まり、問診・視診・触診・打診で何を知らのかという内容でした。そして呼吸器系と循環器系のアセスメントでは、「何故深呼吸をしたほうがよいのか」その原理の解明、「心臓の収縮・拡張、心音の原理など」について、DVD「ハートサウンズ」を用いて実際の心音を聴取しました。また演習では、肺野のどこで、どんな呼吸音が聞こえるのか、心音のI音、II音について聴診器を使って鑑別する方法を実際に行いました。

全体を通して知識を統合した観察の方法、特に根拠づけの重要性を指導の中で活用することが大切であると痛感しました。

看護学科教員、学科卒業生、実習病院の看護職の方々が参加した研修会は初めての試みでしたが、この研修会が交流の場となり、今後一層の連携を深めていけると考えます。(阿部勝子)



日本理学療法士協会 第三十六回全国研修会

十月五日(金)、六日(土)の二日間にわたり社団法人日本理学療法士協会 第三十六回全国研修会が佐賀県佐賀市にある佐賀文化会館にて開催された。参加者は約千三百名であった。テーマは『テクニカルスタンダード』で、すぐ役立つ理論と技術であり、第一会場から第四会場までの四会場においてテクニカルレクチャーや機器展示、助成研究発表などが行われた。テクニカルレクチャーは「中枢神経障害」「発達障害」「マニピュラティブ」「実践できる呼吸理学療法」「高次脳機能障害」「PNF」「スポーツ・健康増進」「地域活動と理学療法」「最新評価・治療機器レクチャー」の九つであった。また、一般公開講座は、「古武術からみた日本人の身体の動き」と題し、武術稽古研究会松茸館主宰・甲野善紀氏を講師に招き、講演いただいた。



本研修会の新たな取り組みとして、専門領域研究会のオリエンテーションの枠を設け、教育、物理系、生活環境支援系、神経系、物理療法系、骨・関節系、基礎系、内部障害系などの各系における現状・今後の方針の報告、ワンポイント・レクチャーなどが行われた。この専門領域研究会は協会の生涯学習システムの一環であり、各研究会に所属し、規程の年数と単位習得後、申請によって専門理学療法士の認定を受けられる制度である。今まで



は研修会ごとに講習会や研修会を開催しており、全国研修会などの場で現状報告などはなかった。今回のオリエンテーションにより、実際にまた自分が所属していない研究会も含め、現状や方向性が明確になり、今後参加への動機付けとなった。

また、もう一つの新たな取り組みとして、テクニカルレクチャー「最新評価・治療機器レクチャー」で企業発表が行われた。今回は七社の発表が行われた。それぞれ機器の特性や実際の評価方法、訓練への使用方法など研究成果も含めて報告がなされ、大変興味深かった。機器全てを購入し、検討していくことはもちろん困難であり、非効率的である。このように企業と理学療法士で共同の研究を行い、機器の開発や適性、メリット・デメリットなどが明確になることが望まれ、また、それらの成果を発表する場が必要となる。その第一歩として今回の取り組みは大変意義のあるものと考えられた。

一般公開講座は、「古武術からみた日本人の身体の動き」であり、体の動きから人をみていく理学療法士には大変興味深いものであった。これら内容を詳しく述べたいところだが、字数の関係でこれ以上は書くことができない。今回の全国研修会の内容は、スカイパーフェクトTV医療福祉チャンネル774にて完全ノーカットで放送されるそうである。ぜひみて頂きたい。

来年の全国研修会は山形県にて「理学療法と隣接学際領域との連携」というテーマにて十月十一日(金)十二日(土)で開催される予定である。(西條富美代)

学生、海外に学ぶ

海外フィールドワークマニラ

医療経営管理学科三年 飯田哲平

この度の研修は、日常の学校生活ではなかなか得られない十三人の仲間(医学生)との出会い、そして日々新しい発見と驚きに満ちた十日間でした。人生の中で誰もが多くの人々と様々な場面に会おう筈ですが、その瞬間に心の扉を開いていないと、それは何ともなかったかのように側を通り過ぎていってしまうものです。

私は五感を全開させてあらゆることを吸収してきました。これは、私の生涯の宝物です。この宝物を、今後は五感をフル回転させて大切に活用していこうと思います。そして是非、後輩の皆さんにも、この研修にチャレンジして欲しいと思います。



留学生活 in New York

長谷川信人

※理学療法学科 平成十二年度卒業生
現在、ニューヨーク大学大学院に在学中
今夏、本学のロスアンゼルス海外研修プログラムに参加



日本を出発して、はや四ヶ月が過ぎようとしていますが、実に多くの出来事に直面しました。ニューヨーク大学での学校生活は、英語での講義に参加して、積極的に議論に加えて、いかなければならず、かなり大変です。一方で、とても興味深いことは、学生が世界中から集まってきて、いろいろな意見交換の機会があることです。英語でのコミュニケーションに苦労しながらも、様々な学生と話すことはとても面白いことです。日常生活でも色々な場面に会います。世界各国の料理を食べることが出来たり、様々なミュージカルを見ることが出来たり、週末にはフェスティバルが開かれたり、毎日何かしら新しいことを発見しています。楽しいニューヨーク生活です。

が、やはり日本の良さを実感します。先日のテロ事件は大変衝撃的で、精神的に不安定な状態になりそうでした。日本配と支援の便りを日本の方からメールで頂き、改めてがんばるぞ！と決心しています。



オーストラリア



◀カンガルーと一緒に



▲TAFEでのgraduation Ceremony
が終わって修了証を手に

オーストラリアでの研修は、シドニーでの国内線への乗り継ぎで予定の飛行機に乗れず、キャンセリングをするというハプニングで幕を開けた。オーストラリアは、日本と同様に高齢化が著しい速さで進んでいる国であった。そのような現状に伴い、高齢者のためのナースングホームや在宅ケアなどが充実していることに驚き、すばらしいと思った。また、病院やホスピスでも部屋の中のカーテンやベッドカバーが花柄であったことで、明るい印象を受けた。患者さんが生活を行う場としてとても良い環境だと感じた。ホームステイについては、ホストファミリーと会うまではコミュニケーションがとれるが不安でいっぱいだったが、相手を理解しようとする気持ちがあれば伝わるということを知った。一生忘れられない思い出となった。(看護二年 都丸舞子)



▲John Flynn Gold Coast Private Hospitalにて

ホームステイを通し異文化に触れながら英語を学んできました。様々な医療施設を見学しましたがホスピスを見学したことが特に印象に残っています。そこで働く看護士さんを見て週末医療に携わることの難しさ、辛さ、そして中途半端な気持ちでは患者さんと向き合っていくことが出来ず、そのホスピスは寄付とボランティアで成り立っているのです。宗教概念が強く、奉献精神がみな強いのは事実ですが、それにしてもあまり自分が身近に感じた事なので驚きもありました。先生含め十人と共に過ごした二週間、私にとって最高の宝物です。ありがとうございます。(看護二年 松橋野筈)

- 看護三年
安孫子恵
白石由美
(リーダー)
- 看護二年
都丸舞子
松橋野筈
作業二年
大熊冨里
小野田愛美
佐藤智美
伯川未末
放射二年
大塚祥子
(サブリーダー)
- 引率 田中裕美子

引率者から

医療福祉システムや現場の事情を主に看護というウインドウを通して学んだ研修であった。とりわけ印象的なことは、老人や末期患者の看護や介護を行う上で、その側が自己の身体を守るよう常に心掛け、そのための具体的方法をよく知っており、学生への講義の中でもその指導が大きな比重を占めていることだった。つまり、老人や患者が利用できる限り自宅で自立した生活でいることを目指し、自己管理を怠らないという姿勢である。学生が現場に出て行く際に参考に
(田中裕美子)

ベトナム



▼フレンドシップフェスティバルで



◀メコン川下り

ベトナムについての最初の印象は、やはりバイクの数がとても多いという事だろう。道路一杯に並んで走っている光景には、早くも文化の違いを感じた。ベトナムでは主に、病院でのボランティアを行った。PT室と小児科での活動だったが、ベトナムの人々との良いコミュニケーションの場になった。言葉が通じなくても会話ができることを改めて実感する事ができた。ベトナムで出会った人々は、いつも明るく陽気で、時間がゆつくりと流れているような感じがした。いつも笑顔で絶やさないという事を、これから私も目指していきたい。ベトナムでの研修は、文化や現地の人々を近くに感じる事ができ、充実した時間を過ごせるものだった。(看護二年 岩本明恵)



▲地方病院の見学で

私ののはじめてのベトナムでの研修は、驚きの連続だった。ベトナムでの二週間の生活は、普段私たちがしている日本の生活とはまったく異なるものだった。ベトナムでは交通ルールなんてあつてないようなものだし、ホテルでも病院でもどこでも、アリのやまにいた。一番驚いたことは、ベトナムの病院では、ひとつのベッドに二人寝ていることもあるし、日本の大部屋とは違い、ベトナムの大部屋では、二十〜三十人とか、ぎゅうぎゅう詰めに寝ていた。はじめの頃は、これに慣れることができず、早く帰りたいという気持ちがなかつた。だが、ベトナムのいろいろな人々と接しているうちに、とても温かい方が多く、最後のほうは、だんだん帰るのがいやになり、いい友達もできて、とてもよい研修になった。(看護二年 佐山彩子)

- 看護四年
大山幸恵
福祉四年
小原直人
看護三年
大瀧英子
音道裕香子
(サブリーダー)
- 森奈津子
山本紗央美
看護二年
阿久津恭子
岩本明恵
佐山彩子
柘野恵美子
内藤明日香
中村悦子
宮本友佳
(リーダー)
- 引率 中村勝

引率者から

研修を終えて
現地の人によれば一日に一万五千台のバイクが増えているという。疑わしくもあるが信号機やヘルメット着用者は確かに増えている。着用義務はハイウェイに限定されているが、高価でエアサイに似合わなくとも事故の多い現状からは必然的だ。チャイライ病院では職員にヘルメット着用を取り決め率先垂範している。また市内には個人経営の大病院が出現し市場経済の波及の速さに今更な驚きだ。今後とも起業者の欲求を刺激しないではおかないだろう。研修生はこうした状況観察から何を感ず考えただろう。気づかなかつたとすれば悲しいが、些事にこそ研修成果は現れる。研修生一人一人の人間の成長に繋がったと確信している。
(中村勝)

海外研修活動

中国

理学三年 藤田貴子
 福祉三年 確井美咲
 (リーダー)
 理学二年 笠原由佳
 (サブリーダー)
 倉上朋子
 佐藤加寿美
 滝田有香
 北構由佳
 放射二年 岩上智絵
 看護一年 川村浩美
 引率 東口重信



▲研修会の南玄関で

中国の研修の特徴は、各学科毎における臨床実習が行えたということ。自分で、紙面上分かって得なかつたものも多々学べたように思います。PTの勉強する体もそうですが、私がとても印象に残ったことは、中国の人の心の広さと温かさでした。基本的に心の働きは目に見えないものです。しかし、私達を受け入れてくれるようにとする見方、そして、その切な気持ちはとても温かいものでした。研修を行うにあたりご指導、ご助言して下さいました大学、中国康復研究中心の先生方、快く送り出してくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。太謝謝。
 (理学二年 滝田有香)

私にとつて初めての海外となつた中国の二週間は、濃く、とても充実して、そして素敵な出会いに恵まれていました。特に実習でお世話になつた理学療法士の方々は、知識だけでなく、患者さんとの接し方やその他いろいろなお話を教えていただき、その他いろいろなことを学ばせていただきました。中国で素敵な理学療法士に出会えたことは私の宝物です。勉強不足で知識不足の状態での実習となりましたが、間近で患者さんを見させていただけたことが、とてもよい経験となりました。今後、この貴重な経験を生かしていきたいと思ひました。
 (理学二年 倉上朋子)



▲お世話になったPTの先生と

引率者から

中国リハビリテーション研究センター研修

「ニイハオ」で始まり「チイボウ」で一日が終わる毎日でした。北京料理、広東料理、上海料理等連日飽食、美食で体重が気になつた学生も多かったのでは。勿論、研修は計画通り充実して終えました。北京市内は二〇〇八年のオリンピックに向けて着々と準備が進められ、活気に満ちていました。が、福祉事情については現地に行動しなければ判らないことを多く知らされました。(東口重信)

アメリカ



▲AIDS 病棟見学



▲UCLA. 敷地内はバスが走るほど広いです。

本当は去年に引き続きハワイに行きたかつた。・・・。とはいへ、午前中の講義を受けた後の二週間は、午前中は行かなくていい。小児病棟、高齢者ホーム、エイズ外来、ホスピスなどです。中でもホスピスはみんなの興味を集めていました。でも、私が一番印象に残っているのは小児病棟。こんなに明るく、子供のために作られた病院は初めて見ました。NICUも見学できた。とても嬉しかった。今回のロスには観光も一つのプログラム。みな週末になると、ツアーを利用したり、バスを利用したりしてユニバーサルスタジオ、ディズニーランド、グランドキャニオン、サンタモニカビーチ、ショッピングなどに足を運びました。なかには買い物をするのに歩きすぎという話もありましたが楽しい日々を送りました。
 (看護三年 郡司未来)

総勢二十二名という大所帯で行ってきましたL.A.に。なかなか名前を把握出来なかつた。そんな私達の研修はアメリカの医療システムについての講義で始まり、この講義を受けているうちに日本の病院が恐ろしくなつたのは私だけでしょうか。アメリカでは分業が進み、一人一人の医師が行える検査や手術の種類まで決められていて、平均入院日数は七日でこれらとても短いように感じますが(日本は三十三日)、質の高い医療の提供と退院後のケアのシステムを整備することに生み出された数字なのです。アメリカは質が偉大でした。講義では最初は質問もたくさん出てみんな頑張つてたけれど、だんだん睡魔に負ける人も。お疲れ様でした。そんな日々を支えてくれたのが寮。初めはシヨックだったけど、慣れたら快適に過ごせました。食堂も毎日面白かつた。またパーティイしようね。ダンスと共に。
 (看護二年 長濱友美)

看護四年 高原由香里
 看護三年 加藤 学
 郡司未来
 橋詰敦子
 早瀬敦子
 放射三年 梶山智之
 梶原宏則
 (リーダー)
 坂本謙介
 (サブリーダー)
 笹田勇造
 早川 努
 福祉三年 絵面理枝
 (サブリーダー)
 高根沢明子
 (サブリーダー)
 看護二年 大野温美
 小野寺香織
 神蘭洋子
 川尻いずみ
 長濱友美
 渡部幸江
 理学二年 後藤真理
 作業二年 糸井きく
 塩田あかり
 引率 Kevin Dobbs

引率者から

"The Pride" of Los Angeles

The 21 students who attended the medical tour to Los Angeles are not only "the pride" of IUHW but are now also "the pride" of Los Angeles. Indeed, I felt proud of them as I watched them attend challenging lectures nearly everyday. After the lectures, they toured nursing homes, hospitals (including a famous children's hospital), and a hospice center. During all of these tours, students asked excellent questions, showing their great desire to enhance their medical knowledge. Occasionally, students even asked questions in English. However, if students weren't able to ask questions in English, they were able to rely on our terrific hosts, who acted as interpreters when needed.

We found, during our medical tours, that America's medical technology is similar to that in Japan. Thus, it was really the differences in medical culture and procedures that the students were learning, and they were fascinated with what they learned. In fact, many of the questions students asked addressed the differences between medical cultures and procedures. Alas, medical professionals, at each facility we visited,

were impressed with our students' general knowledge of medicine, and they were also impressed with how courteous our students were.

IUHW students were also able to have some fun with visits to Disney Land, Universal Studios, Hollywood, Santa Monica Pier, Grand Canyon, etc. And I'm sure they'll have great stories to tell about those places. On a personal note, I'll never forget how wonderfully my students comported themselves in a land which is, to them, quite foreign and even a little strange. Certainly, these students impressed all Americans they met with their patience, understanding, and grace. Also, I'd like to thank the wonderful people at Osaka University Los Angeles(OSULA) and Millennia Medical Consultants for their kindness and great organizational abilities. Without these superb professionals, the Los Angeles medical tour wouldn't have been as successful. I hope we'll have another student tour to Los Angeles, which has become a beautiful city once again—and now even more beautiful since our students visited. Three cheers for these IUHW students, whose hard work and smiles I'll never forget.

Kevin Dobbs



学科・センターだより

◇大学院だより

今年度から大学院修士課程（または博士課程前期）一年生の研究報告会が年一回の開催になりました。六十余名の院生が三分の七にわたって報告を報告。これに三分の質疑応答が続く予定。会場は大田原・二、東京・二、福岡・一、柳川キャンパスの遠隔授業教室を二系列に分けての、同時進行方式になる予定です。

現在、保健医療学専攻・博士課程後期の論文審査の方式について、審議が進められています。来る十月十七日開催の大学院研究科会議で骨子ができあがる見通しです。（鎌倉矩子）

◇看護学科

看護学科の後期は実習で始まり、実習で閉じる。一年生は九月十七日から基礎看護実習、二年生は九月十日から生活援助実習、三年生は九月三日から保育園・幼稚園実習、そして十月一日から臨床看護実習へ、四年生は総合看護実習、地域看護実習、助産実習（選択）と全学年あけて実習三昧の季節。台風情報や米目同時テロのニュースも気になりテレビから目を離せない五時起きした学生もいる。実習施設の往復路は、色づいた稲穂を眺め秋を味わう小旅行といえるが、体力消耗と睡眠不足に見舞われ熟睡する時間、今日のケアプランを必死で予習する時間へと変換している。開始時、患者さんとのコミュニケーション成立に苦労しながらも、若さと爽やかな笑顔で未熟な看護技術や対人関係技術をカバーしがらばっている。（柳屋道子）

◇理学療法学科

爽やかな風、高い空、鮮やかな色、朝夕の冷気、秋です。学生の秋の近況です。1年生は九月二十七日、二十八日に関連施設見学実習です。Early Clinical Exposureとして効果的な実習が出来るでしょうか。（学習の秋？）
2年生は検査測定実習。終わったひとこれからのひと予習に復習に目を輝かせています。（読書の秋？）
3年生は三週間の評価実習を終え、色々と考えることが。（思索の秋？）
4年生も総合臨床実習を無事（？）に終え

幾人かは豪州でさらに研修し、残るは卒業研究として国家試験。「食欲の秋」ですが、体調には十分ご注意を。（江口勝彦）

◇作業療法学科

学生の皆さん、夏休みはいかがでしたか。学生の皆さん、何故、学生には長期休暇を社会が認めているか、考えた事はありますか。その正答はわかりませんが、机に向かっているだけでは、より良い社会人や視野の広い専門職は育たないと、社会（つまり我々一人一人）が考えている証拠ではないかと私は思います。そうでなければ、優秀な専門職を育てるために、長期休暇がなく勉強漬けの学校が一つや二つあってもよさそうなのに、とも思いますが、もし、今回の休暇が実の無いものになつてしまった学生さんいたら、次回は、長期休暇でしかできない様々なことにチャレンジしてみてください。（下田信明）

◇言語聴覚障害学科

四年生のみなさまへ。
後期の臨床実習も始まりました。学内組の方も学外組の方もお元気でしょうか。さて、夏休み十日に渡って対国試用学習週間を設けたわけですが、皆さんの「知」のレベルは上がりましたか？
今年度、ST国家試験は三月二十四日に行われ、今日からカウントダウンを始めて、本腰を入れて下さい。少年老い易く学成り難いですよ。この夏皆で作りに上げた「言語聴覚士国家試験出題基準解説テキスト」を本棚の飾りにしないで下さいね。（武智司尾子）

◇放射線・情報科学科

七月一日、宇都宮市で開催された全関東医歯薬獣医科大学対抗陸上競技大会で本学科四年生の齋藤孝明くんが、やり投げの部で優勝しました。彼は小学生時代から陸上競技を続けており、数々の受賞経験を持っています。大賞へ入学してからも陸上部に所属し、この度栄誉ある成績を収めました。彼にとっては大学生活最後の夏に、一花咲かされた至福の時ではなかったかと思えます。なお、その栄光をたたえ、学科長より賞状と記念品が授与される予定です。

秋は勉強にもスポーツにもベストシーズンです。皆様も大学生活の思い出に残る一花を咲かせてみては如何でしょうか。（樋口清孝）

◇医療経営管理学科

夏休みの期間を通じて三年生の病院実習が全国で行われた。実習評価の一環として、北海道の室蘭で病院実習を行っている四人を訪ねた。ちょうど二週目にあたりこれから本格的な業務に入るから、みな緊張していたが、はるばる訪ねてきた私の顔を覚えてうれしそうに微笑んだ。時間をもらって業務や寮生活についてうかがった後に、ポケットマネーでさきやかな宴を持った。人事課長もお招きしたが正直なよい人物であった。夏が終わる、三年生が社会人の精悍な顔になつてくることを期待して教員の行脚が続いた。（矢野 聡）

◇医療福祉学科

福祉の夏、実習の夏。
医療福祉学科も、他学科と同様、夏休みは実習の季節です。三年生と四年生が全員実習にです。二年生は、全員が社会福祉士資格取得のための実習や、医療ソーシャルワーカー格取得のための実習や、医療ソーシャルワーカーであるいは卒論研究などを目的とした実習にです。実習施設の種類も非常に多岐にわたります。例えば、三年生は、市役所の福祉課（福祉事務所）、特別養護老人ホーム、児童養護施設、障害者福祉施設、社協など。四年生は、さらに、大学病院、精神病院、共同作業所、子育てセンター、グループホーム、保育所、乳児院などなど。一人一人の関心も違うので、指導する教員も大変です。そうして、それぞれが、利用者・患者さんたちの福祉とは、生活とは、QOLとは、専門的援助とは、ソーシャルワーカーの役割とは、と問いつけるのです。さて、実習で一回り成長したでしょうか？（本多 勇）

◇情報教育センター

情報教育センターでは、大田原市の依頼を受け、平成十三年八月二十日（月）～八月二十四日（金）と平成十三年九月十日（月）～九月十四日（金）の二回に分けてIT講習会を実施しました。内容は、ウィンドウズ概説、ワード、エクセル、インターネット・メールの初歩の演習を行いました。出席人数は、一回目が七十八名、二回目が四十名でした。皆さん大変熱心で、興味深く勉強されていました。演習の最終日にアンケートを行ったのですが、ペーパースリットというご指摘があり、次回の反省材料であります。（権澤一之）

◇語学教育センター

TOEICとTOEFL 違いを知っていますか？
TOEIC（トイック）とはTest of English for International Communicationの略称で、国際コミュニケーションのための英語能力試験のことです。全二百問を二〇分の時間で解くマークシート方式の客観テストで、前半のリスニング問題（四十五分）と後半のリーディング問題（七十五分）に分かれています。
一方、TOEFL（トフル）とは、Test of English as a Foreign Languageの略称で、英語を母国語としない人々のための英語力測定テストです。アメリカ、カナダや他の英語圏の大学へ入学を希望する外国人（non-native English speaker）の英語力を判断するため、一九六三～六四年度より導入されています。このTOEFLが昨年十月よりコンピュータ受験（Computer Based Test）となりました。通称TOEFL CBTです。スコアもペーパー版TOEFLで六七七点満点だったものが、三〇〇点満点となりました。
みなさんはこのTOEFLの準備クラスをご存知ですか？ Listening, Grammar, Readingを毎週少しずつ勉強しています。興味のある方ならどなたでも参加歓迎です。一度のぞいてみてください。毎回プリントを用意しますので、突然の飛び入り受講も可能です。（宮崎路子）

◇言語聴覚センター

「ことばの遅れ」秋季セミナー開催
前号でお知らせいたしました音声言語外来は七月より活動を開始いたしました。週一回ですが出来るだけ患者側に立った診療を心がけております。
この号がお手元に届くころにはすでに終了してしまっていますが、今年も「ことばの遅れ」秋季セミナーを十月十三日に大学キャンパス内で行います。今年はこの夏の発達遅れの理解とその支援と子どもとのより良いコミュニケーションを求めて」と題して三名の講師の先生からお話を伺うことになっております。例年好評なセミナーですので今後、是非発展させてゆきたいと考えております。
いつも思うことですが、コミュニケーションに話言葉を使うことは人間だけに与えられた特権です。それにしては私たちは話言葉にあまりにも無関心なのではないでしょうか。今回企画したようなセミナーを通して、話

話言葉にあまりにも無関心なのではないでしょうか。今回企画したようなセミナーを通して、話

し言葉の大切さを認識していただき、北関東を話し言葉の文化の中心にしたいなどと夢をもっています。よろしくご支援ください。
(新美成二)

◆基礎医学研究センター

遺伝子に何を求めますか？
ヒトゲノムの解読が終了し、さらにその後の解析が進むにつれて、我々人類はこれまで神秘的に思われていた世界の扉、ついにパンドラの箱を開けていくことになりそうです。以前も言いましたように、遺伝子から得た情報をベースにして、われわれは多くの恩恵をうけます。難病の治療法が見つかり、飢えに苦しむ人々を救うために食料事情を大きく好転させる手立ても考えられます。自分の遺伝子が解する事で、起こり得る病気を予測し対策を練る事、犯罪の検挙率が上がる事、親子の照合に決着がつく事なども考えられます。人類は歴史上類例を見ない、膨大な量と質を誇る情報を入手することになるでしょう。然し、こうした可能性が開ける分だけ、危険性が生じます。遺伝子の利用の仕方によって、あるいは悪用する結果、混乱した社会を招く恐れのあることを忘れてはならないのです。国際レベル、国レベルで討議が始まっています。来ましたが、キチンと問題を整理して、我々一人ひとりが遺伝子情報をどのように扱うべきかじっくり考えましょう。今世紀は遺伝子情報をもとにしたバイオテクノロジーの花盛りの時代になりそうですが、本当に大事なのはそれを扱う「人間の哲学」や「倫理観」を問われる時代になるのだと思えます。 (嶋田裕之)

◆健康管理センター

肥満にならないように気をつけましょう。季節は「食欲の秋」です。とは云ってもカロリーオーバーに気をつけて下さい。健康診断で標準体重をかなりオーバーしている人が少なくありません。現代人は高脂肪食生活に慣れきっています。食品のバランスを考え、食べ過ぎに気をつけるとともに、日常の運動量を増やすように工夫して下さい。甘いものが好きな人、食べるスピードが速い人、食後運動量の少ない夕食にドカ食いする人は肥満になりがちです。肥満の合併症として、高脂血症、脂肪肝、糖尿病、高血圧、いびき、睡眠時無呼吸症候群、過重による膝関節痛などが知られています。(谷 禮太)

部会・委員会報告

◆紀要委員会

第四回紀要委員会を七月十八日(水)、第五回を八月二十九日(水)、第六回を九月十九日(水)に開催いたしました。前回のこの欄でも触れましたように、紀要の編集作業マニュアルを作成しました。編集作業は原稿受付から印刷発行までを概略次のように行っておりま。原稿は論文内容に最も近い分野にある二名の専門家によって審査を受けます。その審査結果に基づいて著者による原稿の修正をしない、必要あれば再審、三審を経て、審査合格と必要であれば再審、三審を経て、印刷業者に渡します。印刷業者からのデータ校正は三回行っておりま。ただし三回目は希望者のみです。(野原功志)

◆情報化委員会

現在の本学ネットワーク(LAN)の回線容量は、幹線が1Gbps、支線が10Mbpsです。幹線は大容量のケーブルが敷設されていまして、例えば画像などの大きなデータを転送しても短時間で送信することが出来ますが、支線が10Mbpsであり、この回線部分で時間を取ってしまう。結果的にデータ転送スピードが遅いと言ったことになりま。今回、この支線部分を100Mbpsの回線に変換する工事を行っておりま。変換が終了しますと、高速なデータ転送を行うことが出来ます。これらの工事に伴い、九月二十一日(金)と二十四日(月)の間、ネットワークの利用を停止します。また、九月二十五日(火)から回線スピードの変更に伴う、パソコンのネットワーク関係の設定を各利用の方で行って頂きます。設定方法の詳細は、情報システム室から、資料およびメールでご案内します。しばらくご迷惑をかけます。ご協力をお願いします。(権澤一之)

◆教務委員会

再試験該当者数を減らそう
平成十三年度前期試験における再試験該当者は前年度後期のそれと比較して約五百件の増加を見ている。具体的該当数は延べ一六六一対象学生実数九一九人であった。本学の履修規定では、原則として再試験は行わない。を教員には、原則として行わない。を教員側が教育的配慮の必要性を訴える声もあり、全く再試験をなくす状態に今はない。再試験該当者が五百件増加したのをどのように解釈するか、学生の学力低下に結びつけるのか、再試験該当の年次推移を参考に教務委員会として検討を行うことにする。しかし、これでは無いので、学生諸君は時機に於いて勉学に励んで欲しい。(杉原素子)

◆国際部・国際交流委員会

一、平成十三年度夏期海外研修活動の記者発表、結団式、壮行会が七月二十七日に行われ、一行は三十一日出発、八月十三日全員無事帰国しました。(特集六頁から七頁)尚、全学向け「報告会」を十月十五日(月)六時限にE102で開催予定です。
二、笹川記念保健協力財団主催「国際保健協力フェイルドワークフェロシップ」の国内研修(八月二日、三日)に各学科から七名、海外研修(八月四日、五日)に飯田哲平君(経営三年)、(報告五頁)が参加し、有意義な研修をさせていただきました。事前に学長と参加学生の懇談会(七月十日、二日)を開催しました。
三、大田原市「与一まつり」の武者行列に、女子留学生 Pradhan (ネパール) と Nguyen (ベトナム) が参加しました。(山崎統四郎・田中美子)



▲武者行列に参加した Pradhan さん、Nguyen さん

I UHWクイズ ~第27弾~ 当選者発表

さて、今回はなんと全問正解者が出ませんでした。難しかったでしょうか。これにめげずに、またチャレンジしてみてください。

<前号の問題>

- 野球の得点のことを英語ではなんというでしょう？
A = run B = point C = score D = baseball
- 「ノーヒット・ノーラン」とは「無安打無得点」のことです。では、エラーや四球などが続いて、ノーヒットで点が入った場合を英語でなんていうでしょう？
A = run B = steal C = score D = bonus
- 今年、外国人を除いた日本プロ野球選手の年俵がチーム平均6431万円と最も多かったのは巨人ですが、平均2424万円と最も少なかったのはどのチームでしょう？
A = 阪神タイガース B = オリックスブルーウェーブ C = 日本ハムファイターズ D = ロッテマリーンズ

解説

野球の得点のことを英語ではRUNといいます。走るだけだとRUNではありません。ランナーが一人いるときのホームランは、「ツーラン・ホームラン」つまり2点ホームランです。ノーヒット・ノーランの「ノーラン」とは、無得点のことです。新聞でもたまに「無安打無得点」と書いているのがあります。これは、野球の得点者がベースを巡ってくることに由来しています。日本プロ野球選手会の調べによると、日本人の年俵が平均2424万円と最も少なかったのはオリックス・ブルーウェーブでした。これはイチロー(推定5億5千万円)が移籍したことも影響しています。

解答

- = A
- = A
- = B

私が感銘を受けた本（第13回）

紹介者：理学療法学科 秋山純和



書名：星の王子さま
著者：サン・テグジュペリ
(内藤濯 訳)

出版社：岩波書店

この夏に「星の王子さま」を読んだ。小学生の頃から数えて二回目である。おとなになると見えず、こどもだけに見えるもの。また、目で見えず、心で見えること、など自分もおとなに染まってしまったと感じた。花と星の王子とのやりとりは胸が痛くなった。

作者はパイロットであり、実際にサハラ砂漠に不時着、戦争にも志願しそのまま帰ってこなかった人である。その事を踏まえて、読むとおとなのための童話という意味が分かる。自分にとって、ときどきは読みかえしたい本のひとつである。

図書館の大谷学長著書の右側の書棚に置きます。ご愛読下さい。（図書館長）

リレーエッセイ

深き音に

医療福祉学科 江木明美



新聞のコラムで、「寺田寅彦と宮沢賢治の音楽をリード・オルガンと一緒に歌う会」の記事を見つけたのは、土曜の朝の事だった。その日の午後には、東京・初台のオペラ・シティにあるO楽堂という小さなホールの席に私は座っていた。次々に、中高年を中心とした人々が席をうずめ会は始まった。

宮沢賢治作詞・作曲の「星めぐりの歌」「北ざらのちぢれ羊から」は、星や雲を想い浮かべながら、メロディの斬新さに驚きを覚えた。寺田寅彦作詞・作曲の「三毛の墓」は、曲も詞も古風な可愛さを持っているように思えた。賢治も寅彦も共にオルガンの音を好み、寅彦は二年の留学の間、自分の大切なリード・オルガンを漱石に預けていたとのことである。この日のリード・オルガンは、1907年製造の小さな古いオルガンで、奏者の佐藤泰平氏が仙台のご自宅から、わざわざ運ばれたものであった。心に染み入るその深き音に感動した。この小さな古いオルガンは、100年の時空を越えて、深き音を伝えてくれたのだった。

2001年、酷暑の夏は、爽やかな深き音を心に残して過ぎていった。
次回執筆者：中村 勝（看護学科）

「語り」のなかからお年寄りの生活の「拠り所」を紡ぐ

私の研究ノート

医療福祉学科 高橋紘一・本多 勇

私たちは、今年度、大学から研究助成を頂き、高齢者（お年寄り）の聞き取り調査をしています。これまでも老人ホームや在宅にいらっしゃるお年寄りを訪ねて、その方の人生（ライフヒストリー）を尋ね、語っていただきました。そこでの語りの内容、言葉の使い方などから、そのお年寄りの人生観や生活の「拠り所」を探索しようと試みています。

栃木県内のある老人ホームにいらっしゃるKさんは、現在88歳。Kさんは、老人ホームに入居するまでは、看護婦として働いていらっしゃいました。お話を聴いていくと、最初に奉職された病院は、静岡県内にあるハンセン氏病の療養病院でした。勤められていた時期は、第二次世界大戦の時期に重なっています。Kさんの、「あたし全然くよくよしない」「毎日を楽しく」「今は世の中が悪い」「若い人はしっかりしてください」などの言葉は、その人生経験から発せられる言葉なのかと、まずは最初に奉職された病院を実際に訪ねてみることにしました。

その病院は富士山を望むカトリックのハンセン氏病の療養病院。静かな雰囲気の中にあります。その病院は、大谷藤郎前学長も理事をされているとのこと。シスターでもある院長先生や在院者（患者）代表の方に、Kさんが奉職されていた時代の、病院の様子や患者さん達と医師・看護婦・シスターの様子、ハンセン氏病を取り巻く時代状況などについて詳しく教えていただくことができました。何ったお話から、Kさんの人生観や生

活の「拠り所」を解釈するヒントを得ることができたように思います。

介護保険の要介護度等に見られるように、「客観的なモノサシ（尺度）」を用いて援助することは、その高齢者の「障害や疾病のみを見て援助する」危険性を常に孕んでいます。このことは、生活者としての高齢者（お年寄り）一人一人が何を支えに今を生きているか、生活しているか、を軽視してしまうことにつながってしまうのです。

様々な境遇・生活環境の中に生きるお年寄りのライフヒストリーの語りの中から、高齢者自身の「老い」や「死」に対する思い、家族に対する思い、生活境遇や現在の状況に対する思いを聴けば聴くほど、人生のドラマを感じずにはいられません。そして、目の前の一人のお年寄りへの尊敬の念が沸き上がってくるのです。語られる「言葉」から、その方の人生・生活の「拠り所」を紡いでいくのは難しい作業ですが、人生とは何か・生活とは何か・福祉とは何か、を問い直していく作業に他ならないと考えています。



入試区分	試験地	入学試験日	
		保健学部	医療福祉学部
高校推薦入試 / 留学生 帰国生徒 特別選抜入試	本学	平成13年11月17日(土)	
社会人 特別選抜入試	第2回 本学	平成13年12月15日(土)	
センター試験 利用入試	前期	個別学力検査等 課さない	
	後期	センター試験 平成14年1月19日(土) および1月20日(日)	
一般入試 前期	A日程 本学 仙台・東京	平成14年2月4日(月)	平成14年2月5日(火)
	B日程 本学 東京 名古屋 福岡	平成14年2月7日(木)	平成14年2月8日(金)
一般入試 後期	本学	平成14年3月11日(月)	平成14年3月12日(火)

入試情報

※一般入試前期日程のA日程およびB日程はそれぞれの出願書類を提出することにより、同じ学部で2回、学部を変えれば最大4回まで受験できます。

※一般入試とセンター試験利用入試もそれぞれの出願書類を提出することにより併願することができます。

※保健学部の一般入試・センター試験利用入試では同一学部内の学科に限り第2志望学科を出願できます。

なお、第1志望、第2志望以外の学科で合格する場合があります。

※医療福祉学部の一般入試・センター試験利用入試では志望学科でないもう一方の学科を第2志望学科として取り扱います。

教員紹介

- ①所属・職位 ②生年 ③出身校 ④専門分野
⑤直前の勤め先 ⑥主要著書または論文
⑦本校における担当科目 ⑧趣味



阿部 智恵子 (アベ チエコ)

- ①看護学科 講師
②12月23日
③徳島大学大学院
④地域看護学
⑤徳島県看護協会
訪問看護ステーション
⑥「障害と人生—障害者水泳選手の
ライフコースをとおして—」
⑦地域看護学概論、保健相談指導論Ⅰ
⑧旅行



小池 貴久 (コイケ タカヒサ)

- ①放射線・情報科学科 助手
②1971年3月15日
③東京理科大学大学院工学研究科
④医用画像技術学 (核医学)
⑤(財)心臓血管研究所
⑥「Intense Laser Pulse Guiding in
Capillary Discharge Plasmas And X-
ray Lasing」
ATOMIC COLLISION RESEARCH IN JAPAN Progress
Report No. 26;95-98 (2000)
⑦核医学検査学実験、電気・電子工学実験、
医用画像学実験 その他
⑧食べ歩き、Fishing



小出 大介 (コイケ ダイスケ)

- ①医療経営管理学科 助教授
②1967年9月15日
③東京大学大学院医学系研究科
④医療情報学
⑤東京大学医学部附属病院
中央医療情報部医局長
⑥「Computerized reminders to moni-
tor liver function to improve the
use of etretinate. International Journal of Medi-
cal Informatics, 2000, 57(1):11-19.
⑦医療情報システム論、医療情報ネットワーク論、
医療機器流通論、外国書購読Ⅰ、ゼミⅠ
⑧硬式テニス、バレーボール、少林寺拳法



山口 光治 (ヤマグチ コウジ)

- ①医療福祉学科 講師
②1963年 (S. 38)
③淑徳大学大学院社会福祉学研究科
社会福祉学専攻修士課程
④高齢者福祉
⑤上田女子短期大学
⑥「高齢者虐待—日本の現状と課題—」
中央法規 (分担執筆)
⑦老人福祉論、ケアマネジメント論、社会福祉援助技
術演習Ⅰ・Ⅱ、医療福祉実習Ⅰ・Ⅲ、ゼミⅢ、卒業
論文、老人福祉特別講義
⑧トレッキング、クロカンスキー

ホームページ、一新

今回、国際医療福祉大学ホーム
ページが一新され、生まれ変わら
りました。ぜひ、ご一見ください。
アドレス <http://www.iuhw.ac.jp/>



編集後記

澄みきった秋空にはならなかったが、中学校のグラウンドで体育祭が行われていた9月最後の日曜日、大学キャンパスは静まり返っていた。2ヶ月間たっぷり休養した学生たちは元気がいい。春とは一味違った緊張感をみせた3年生は明日からの臨地実習を控えているからか目が違っていた。いよいよ後期が始まった今日は、大谷学長が去る日である。活況が戻ってきたが秋風のように寂しい。障害者や難病患者への差別や偏見をつくったのは社会ではなく、私たち一人一人の内なる意識のなかから生んでいることを私たちに教えてくれた「現代のステイグマ」。キャンパスで指導をうけることがなくなったが、「ともに生きる社会の実現」という大谷先生の大きな理想は受け継いで精進していきたい。(柳屋道子)

同窓会「マロニエ会」

同窓会学科会・支部会活動について

現在、同窓会「マロニエ会」は、大学在籍時の所属学科単位の会である学科会や、居住している地区支部単位の会である支部会の活動が盛んになりつつあります。今年度にはいり、4学科会、1支部会を開催致しましたが、今後の予定として11月に南関東支部が支部発会式を東京の恵比寿で、作業療法学科が卒業研修会を宇都宮で開催致します。

学科会への参加はもちろんのこと、特に今年度より活動が活発化した、北関東支部(栃木・茨城・群馬)、南関東支部(東京・千葉・埼玉)の2支部会へご参加いただき、学科の枠を超えた同窓生相互の情報交換、交流の場としていただければと思います。

学科会・支部会関係の情報は、各学科会からの案内及び、同窓会「マロニエ会」ホームページ<http://www.maronie.iuhw.ac.jp>をご覧ください。
同窓会「マロニエ会」理事 吐師秀典(看護学科第1期生)

学生課からのお知らせ

十月一日から、後期分駐車場登録受付を開始いたしました。後期からは新しく駐車スペースも増えることとなりますが、以下の点にご注意ください。

- ① 駐車スペースは徐々に拡張しております。工事の完了は十一月月上旬を予定しており、それまでは出入口も含めて工事作業が行われています。また工事車両の出入りもあることから、駐車場内は徐行を原則とし、運転や駐車には十分気をつけてください。
- ② 車両の登録は学生課窓口(L棟一階)で行っていただきます。必要書類を揃え、証紙をG棟券売機で購入のうえ、窓口業務時間内に受付を済ませてください。
- ③ ステツカカーは所定の位置に貼付け、不注意による盗難に遭わないよう各自で管理をしてください。
- ④ スペースが拡張されたことにより、需要分の供給は対応できたものと思われませんが、現在のところ、駐車スペースは登録料をお支払いいただいた方の安全な「権利」です。この「権利」が侵されたことのないよう、未登録車の駐車は厳禁といえます。

これまで駐車スペースの不足から、学生のみならず、ご不便な環境で我慢いただきましたが、後期からは改善されます。公共の場であることを忘れずに、マナーを守ってきれいに使うように心がけましょう。

学生相談室だより

十月に入り、新しいスタッフが増えました。各開室日の担当カウンセラーは、
月曜日：木下愛子
水曜日：小林真理子・木下愛子
金曜日：小林真理子・木下愛子
となります。よろしくお願ひします。
相談室の様子は、次号で紹介する予定です。どうぞ、お気軽にご利用ください。

学生相談室

- ・L棟1階
- ・開室日時 月・水・金曜日
10:00～17:00
～ご利用ください～

図書館からのお知らせ

私立大学図書館協会に加盟
平成十三年八月七日、明治大学リバータワー内のリバーホールで第六十二回私立大学図書館協会総会が開かれ、国際医療福祉大学図書館もこの私立大学図書館協会に正式に加盟しました。今年度新規加盟の十二校を加えた本協会の加盟校は東地区部会二百十五校、西地区部会二百十七校です。総会では後藤総一郎明治大学政治経済学部教授の特別講演「冒険としての読書」があり、図書館の役割には、本の選択、収集、保存のほかに、今日では利用者に対する本の選択と指導も必要であると説いておりました。(野原功全)

コラム

「悲しみとやさしさに舞う」

今回は、富山市障害者福祉センターに勤める理学療法士、藤井雅子さんにお話を伺いました。藤井さんは理学療法学科第一期卒業生であり、またダンス部の創設者の一人でもあります。



「実社会で働いて、およそ二年半と伺いましたが、現在の仕事についてお聞き下さい。」
 ここでは、理学療法士としての仕事のほかに、施設を運営するにあたっての事務的な仕事もしています。最初は抵抗がありました。でも、様々な職種の方々と一緒に医療の為に理学療法士として携わってみて、仕事が広いということを感じました。
 というのも、福祉の現場に出ると、一人一人関わる範囲というのがすごく広くなるんです。大学で勉強してきたことは、ほんの一部だということを知りました。それに、利用者の方々には、父や母と同じくらいの年代の方が多いんです。いつも、来て頂いているという気持ちでやっています。努めて、明るく振る舞うようにもしています。



院にすること、福祉施設に迷いました。在宅の障害者を支援するとは、その方が病院から出られた後ずっと関わっていくこと、これから生き生きと生活するために関わっていくかなければならないこと、そういうことが私のやりたかったこととすごく近かったです。

それに、普通に医療で行うリハビリじゃなくて、文化教室、いわゆるお稽古のような感覚で機能訓練を行うんです。もちろん、集団でのリハビリテーションも行わなければなりません。こちらの方が、自分の性格、タイプにあっているかなということもありまして、現在の仕事を選びました。大学最後の年に病気で入院してしまわれたとお聞きしましたが、そういった事も含め、大学生生活四年間はいかがだったのでしょうか？
 やはり一期生なので何事も新しく、行事も新しいものをたくさん作って、勉強だけじゃなくて、楽しいことが多かったんです。私はどちらかというと、学科の方より部活の方で、新しい部活動、ダンス部なんですけど、これを作った動機は、大田原市の産業文化祭とか、企業の夏祭りとかで踊らせてもらったり。イベントは楽しかったです。
 大学生がこんな活動をしているというのを大田原市民の皆さんに分かって頂けるように一杯活動できたと思っています。今もそういつた活動を後輩達が続けてくれているので、うれしく思います。
 一ヶ月におっしゃるとおり、四年生の一月に、病気で入院してしまっただけです。これから、いよいよ試験勉強

強もおいこみという矢先でした。先生方と相談し、ほとんど毎日病院へ家庭教師のように来て下さいました。特に、丸山先生は、親身になって心配して下さいました。受験場所のある東京の病院に、先生方のご尽力により入院させて頂き受診することができました。
 先生方には、受験の時もそうですが、四年間大変お世話になりました。

「卒業から一年程で、お父様が他界された」と伺いましたが、
 はい。私には、妹がいるのですが、ちょうど就職活動の時期に父の病気が重くなりました。妹は飛行機の客室乗務員を目指していたので、その合格発表の頃、さらに父の具合が悪くなってしまう、合格を知らせない状態が出来るかどうか分からなかった。しかし、病院の方々の協力もあり、病室で合格した妹の制服姿を見ることが出来ました。社会人になった友達二人を見て、父はうれしそうに笑っていました。それが、そういば笑って、妹の初バイトという日に他界してしまいました。

「ダンスはいつ頃から始めて、そして今も続けられているのですか？」
 中学生時代に、器械体操をやっていたのがきっかけですね。本格的にダンスを始めたのは高校を卒業してからです。この辺りには、古くから「おわら風の盆」という踊りがあり、踊ることを身近に感じていたのかもしれない。現在は、ジャズダンススタジオへ週二回ほど通っています。あと、これは予定ですが、これから週に一本、私がインストラクターで教えたりもする予定です。
 「在学生や同期生に対してメッセージなどありますか？」
 私の学生時代は半分、いや、もつとかな、部活にエネルギーを注いでいたと思います。勉強も大事だけど、学生時代は大学の授業だけじゃなくて自分が興味を持つたことを、時間があるんだからと

ことやって欲しいですね。それがいざ就いた後、いろいろな形で自分の為になりますから。同期生とは、たまに会うというんな病院の話も聞いたりします。様々な現場があつて、種々の仕事があつて、自分の得意な範囲、そうじゃない範囲、たくさんあると思います。だからこそ、もっと情報交換して繋がっていきなさい。ちょうど、大学の方で医療福祉チャンネルという番組を放送していますよね。そういうのもので、各地の情報を見られるとうれしいです。

「現在の環境の中で、仕事や趣味にどういったお考えをお持ちですか？」
 在宅障害者の方は、外出する。しない、出来る。出来ない、やっぱり様々にあると思います。そういうところ、一人でも多くの方を社会復帰に向けて、この施設を拠点としてスタートして、自分たちで施設を借りて、計画を立てて、実行していく位の自立をして欲しい。PTの仕事は、私の仕事であり、やるべき事であると思っています。また、ダンスは同じくらい自分を表現できるものであります。

「これから生きていく上で、私に出来ることは、出来る限り続けていきたいと思っています。」



▲明るい笑顔で利用者の方と接している藤井さん

「お忙しい中、インタビューに答えて頂きありがとうございます。仕事に趣味に、これからの益々の活躍を心より祈っております。」

I UHWクイズ—第28弾—

楽しい夏休みはあっという間に終わってしまいましたね。夏の風物詩といえば、花火。今回のクイズは花火にまつわるクイズをいくつか……。答えを記入したら、事務局窓口外側にあるメールボックスへ投入して下さい。前回の繰り越しもあるので、今回はなんと正解者のなかから抽選で2名の方に旅行ギフト券をプレゼント！応募資格は本学の学生で、1人1通、締切は11月15日(木)です。

1. おもちゃ花火が日本ではやり始めたのはいつ頃からでしょうか。
 - a. 平安時代
 - b. 江戸時代
 - c. 明治時代
 - d. 第二次大戦後
2. 打揚げ花火には、その形によっていくつかの種類に分かれます。次のうち、実際にあるのはどれでしょうか。
 - a. パカ物
 - b. ボカ物
 - c. 揚げ物
 - d. 玉物
3. 打揚げ花火には、その開いた形が花火の形にたとえられる物があります。次のうち、実際にあるのはどれでしょうか。
 - a. 桜
 - b. 椿
 - c. 牡丹
 - d. 向日葵
4. 「花火師」の認定をする機関(団体)はどこでしょうか。
 - a. 経済産業省
 - b. 厚生労働省
 - c. 日本花火師協会
 - d. 日本煙火協会

●●●●● 切り取り線 ●●●●●

● 解答用紙

● 学科 _____ 学年 _____

● 名前 _____

● 解答

● 1 2 3 4